

# 法学セミナー

HOUGAKU Seminar

 日本評論社

2018年10月1日発行 毎月1回1日発行 通巻765号  
1956(昭和31)年4月12日 第3種郵便認可 Vol.63-10  
ISSN 0439-3295

## [目次]

Contents

## [特集]

# 国際法の 最新論点

——国際社会の変化と国際法の展開

本特集のねらい	森 肇志・岩月直樹	022
領域に関する原始権原	深町朋子	024
——領域権原論は何をどこまで扱うのか		
公海漁業規制	西村 弓	031
国際テロリズムに対する武力行使	根本和幸	037
国際裁判の機能	李 禎之	043
——国際社会における「客観的」判断の役割		
第三国による対抗措置	岩月直樹	049
国連安保理による制裁と人権保障	加藤 陽	056
国際法と立憲主義	伊藤一頼	062
——グローバルな憲法秩序を語ることは可能か		

2018  
10

<b>[法学者の本棚]</b>	
日本民法学説史の貴重な一里塚	清水恵介 扉
加藤雅信ほか編『民法学説百年史——日本民法施行100年記念』	

<b>[ロー・ジャーナル]</b>	
トランプ大統領による入国禁止令と司法(4)	福嶋敏明 001
メキシコ国境沿いのティファナ川国際環境紛争リポート	吉田邦彦 009
——水法研究の皮切りとして	

<b>[ロー・アングル]</b>	
裁判所は人生劇場 19	北尾トロ 016
オウム事件と僕が駆け出しの頃	

<b>[ロー・クラス]</b>	
アメリカ憲法判例の最前線 9	坂田隆介 068
Zubik v. Burwell, 136 S. Ct. 1557 (2016) 判決(2016年5月16日)	
統治機構論探訪 18	赤坂幸一 074
最高裁判例の形成過程(1)	
債権法講義[各論] 27	河上正二 082
消費貸借	
現代刑法の理論と実務——総論 7	松宮孝明 092
故意と錯誤	
応用刑法II—各論 5	大塚裕史 102
窃盗罪における主観的要件(1)——故意の内容と不法領得の意思の要否	
伝聞法則に強くなる 7	後藤 昭 112
実況見分調書と立会人の指示説明	

<b>[最新判例演習室]</b>	
憲法/堀口悟郎	120
行政法/桑原勇進	121
民法/松浦聖子	122
商法/鳥山恭一	123
民事訴訟法/川嶋四郎	124
刑法/豊田兼彦	125
刑事訴訟法/中島 宏	126
労働法/山下 昇	127

<b>[ライブラリー]</b>	
新刊ガイド	129

<b>[ロー・フォーラム]</b>	
裁判と争点	018
立法の話題	019
最新立法インフォメーション	130

<b>[コラム]</b>	
司法書士の生活と意見	081
弁護士事件ファイル	101
判事補メモ	091